

校長会 みえ No. 66

●発行 三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内
TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
●編集 三重県小中学校長会 広報委員会
●印刷 光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



私の学校づくり

伝統を受け継いで



鳥羽市立答志中学校 校長 橋本 さゆり

本校は、鳥羽港の北東約 2.5 km、市営定期船で約 15 分の伊勢湾に位置する離島・答志島にある 1 級へき地校です。豊かな自然と人情味溢れる保護者や地域の方々に見守られながら、全校生徒 21 名は、元気に学校生活を送っています。

学校教育目標『ふるさとを大切に、自らの生き方を主体的に切り拓いていく生徒の育成』に迫るため、「教科の学習」「人権学習」「ふるさと学習」を 3 本柱とし、その相乗効果と「自問学習」による振り返りを大切にしています。この取組は、私が初めて赴任した 10 数年前から始まっていて、主に 1 年生で行う「自問学習」である「わかめ養殖体験学習」と清掃活動は、30 年以上前から続いている伝統的な学習です。他にも親子スポーツ大会、学校防災デー、文化祭のしめ縄造りやさわら料理講座等、保護者・地域の協力があってこそ成り立つ学びがたくさんあります。まさに、地域と共にある学校です。これまでの先生方の思い・創意工夫と保護者・地域

の協力により答志中の学習活動は脈々と受け継がれ、現在の ICT 活用や関係機関との連携と相まって、今の生徒たちの輝きとやる気、感謝の心に成果がしっかり表れているのを感じています。

答志中学校の伝統と地域の協力体制の良さやその価値を受け継ぐためには進化が必要です。私は校長として、そのための努力を積み重ねている現状を、生徒にも職員にも伝えていきます。生徒たちには、ふるさとを誇りに思い自己肯定感を高めてもらいたい。また、職員にも、伝統の上に新しさを加えている自分の取組の成果に自己肯定感を高め、やりがいを感じてもらいたい。そして、生徒も保護者も職員も、1 チームで学校をさらに良くしていける、自分と自分の学校やふるさとを誇りに思い、一人一人が良さを語れるような学校でありたい。そんな思いで、日々私から答志中の良さを発信しています。





「戦後80年」「昭和100年」の節目に

三重県小中学校長会 会長 **松本 幸也**

この度、三重県小中学校長会長を務めさせていただくことになりました、津市立養正小学校の松本幸也と申します。よろしくお願い致します。

本年度は、様々な節目の年でもあります。最近よく目にするのは「戦後80年」そして「昭和100年」という節目です。この100年は、戦争の時代から戦後の復興、高度経済成長といった激動の時代であると同時に、大きな自然災害が繰り返し起こった時代でもあります。関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災、新型コロナウイルス感染症の感染拡大も未曾有の災害と言えるでしょう。今や人口の約3割が平成以降の生まれで、昭和の時代を知らない世代も増えています。戦争を知らない、過去の災害も知らない、そのような世代が増えつつある中で、節目の年を迎えるたびに、この思いを目の前の子どもたちにどう伝えていけばいいか、苦慮しています。

人口減少や少子高齢化、子どもの貧困など、子どもを取り巻く社会環境は厳しさを増しています。国連児童基金（ユニセフ）が公表した「子どもの幸福度」では、日本の子どもは高い自殺率などが要因となり「精神的な健康度」が先進・新興国43か国のうち、32位と下位に低迷しています。全ての子どもたちの権利が保障され幸せに暮らし、健やかに成長できるように、私たち教職員を含めた周りの大人たちは子どもた

ちにとって最善の手だてを常に考えなければなりません。

コロナ渦に、ある保護者から次のような手紙をいただき、今でも私の学校経営の支えになっています。

『コロナ渦の影響で多くの人が辛い時間を過ごしています。そんな中、私は今まで気づかなかったことに気づくことができ、物事を違う角度から見ることや自分の状態を整えて過ごすことなど、コロナ渦だからこそ変わることができた自分がいることも実感しています。子どもたちも大変な中でも出来る楽しいこと、違った方法での取組を体験しながら、この時期に工夫して過ごしたことが、大人になってから生きると思えます。』

このコロナ禍をたくましく生き抜いてきた子どもたちは、きっと今までにない発想で飛躍的に成長する可能性を秘めている、そんな大人になってくれると私も信じています。

三重県小中学校長会は結成以来、教育の充実と発展に寄与するため、真摯に研究と実践を重ね、教育諸条件の整備に努め、多くの成果を上げてきました。今後も、三重県教育委員会をはじめとする様々な教育諸団体との連携を密にし、協議を深めながら、国や県の施策の具現化を図る一方、校長会として実効性のある活動を展開していきたいと考えております。

一人一人がかけがえのない存在である子どもたちのために誠心誠意取り組んでまいりますので、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

小学校部会役員



酒匂秀人(幹事) 岡本 淳(幹事) 中矢佳代(幹事)
石井孝史(副部会長) 松本幸也(部会長) 阿保谷季之(副部会長)

中学校部会役員



川原田 元(幹事) 中村佳代(幹事) 山口永介(幹事)
伴 充(副部会長) 市森幸子(部会長) 藤本伸一(副部会長)

令和7年度 三重県小中学校長会 理事名簿

郡市名	会員数	小学校理事		会員数	中学校理事	
		名 前	所属校		名 前	所属校
桑名市・桑名郡	28	古川 亜紀	桑部小	10	森清 知	光陵中
いなべ市・員弁郡	17	岡 幸弘	十社小	6	徳田 和洋	東員第二中
四日市市	37	柳川 洋史	日永小	22	丹羽 浩也	橋北中
三重郡	8	秦 弘人	朝上小	4	西尾 雅紀	川越中
鈴鹿市	30	大井 るみ	桜島小	10	岡村 幸則	創徳中
亀山市	11	村山 文代	亀山西小	3	堀内 克子	関中
津 市	50	松島 克幸	誠之小	21	敷地 哲也	東橋内中
松阪市	36	渡邊 尚美	伊勢寺小	11	浅沼 孝一	嬉野中
多気郡	14	森井 啓	佐奈小	5	杉坂真奈巳	大台中
伊勢市	22	上永 真弓	みなと小	10	谷口 北斗	御園中
度会郡	11	山野万里華	南島西小	6	服部 卓也	度会中
鳥羽市	6	北 佳子	弘道小	4	千草 義輝	神島中
志摩市	7	井上 雅嗣	神明小	6	大主 孔明	浜島中
伊賀市	18	松本 徹	柘植小	10	二井 英夫	城東中
名張市	14	福島 由夏	名張小	5	野田 朋憲	北中
尾鷲市	5	奥村 健二	矢浜小	6	小林 信	輪内中
北牟婁郡	7	小久保久美子	上里小			
熊野市	8	二見 哲生	飛鳥小	8	宮崎 浩伸	飛鳥中
南牟婁郡	9	竹内 大人	御浜小			

委員会活動

学校経営委員会

委員長 四日市市立日永小学校 校長
柳川 洋史



学校経営に係る、様々な教育課題がある中、令和7年度本委員会では活動方針に基づき、持続可能な学校経営を実現するために、テーマとして「教職員の人材育成」を取り上げます。若手・ミドルリーダー育成、次期管理職育成、ベテラン・少数職種との協働等、人材育成・活用は、学校経営根幹の一つです。

11月4日（火）に「教育実践交流会」を実施します。校種・地域・規模を考慮し、5～6人に分かれ「教職員の人材育成」についての実践交流を行い、各学校・地域での取組や課題を交流します。参加者にとって互いに学び合える場となるよう、有意義な機会になればと考えています。

〈活動方針〉

- (1)今日の学校教育の課題や学校経営上の諸問題（但し、進路指導、生徒指導の課題を除く）の解決に向けた研修を推進します。
- (2)生きる力を育む学校経営を実現するために、教育内容や教育課題について各校の取組や各市町村の状況を整理し、各市町の校長会へ発信するとともに、今後の取組について提案します。

進路指導委員会

委員長 松阪市立三雲中学校 校長
中村 元亮



進路指導委員会では、入試制度の改善や進路業務手続の円滑化等を進める取組を行っています。これまでは、Webによる出願や合格発表など、地道な活動と三重県教育委員会のご理解により、多くの入試事務の見直しや改善を実現してきました。今後も改善を要する様々な課題について、関係機関と連携を取りながら取り組んでいきたいと思っています。

今年度の活動を以下に示します。

〈活動方針〉

- (1)児童生徒の理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現を目指す進路指導を推進します。
- (2)県内の小中間及び中高間において情報交換・意見交換に努めます。
- (3)三重県教育委員会・三重県立学校長会・三重県私学協会等の関係機関と協議し、現行入学者選抜の課題や入学者選抜制度、高校活性化問題等の改善に努めます。
- (4)キャリア教育についての研修に努めます。
- (5)インフルエンザ等感染症の影響により生徒・保護者が不安を感じることなく進路に向かえるよう、関係機関に聞き取り・要望・提案を行っていきます。

令和7年度 研究大会

●第60回東海・北陸地区連合小学校長会教育研究三重大会 (兼)第62回三重県小学校長教育研究大会

- ◆日時 令和7年10月9日(木)・10日(金) 9日：分科会 10日：全体会
- ◆会場 三重県総合文化センター 大ホール (全体会)
三重県総合文化センター、アスト津、三重県教育文化会館 (分科会)
- ※記念講演 講師：映画監督 瀬木 直貴 様
演題：『映画づくりはまちづくり・ひとづくり』

●第62回三重県中学校長研究大会

- ◆日時 令和7年8月22日(金) AM：全体会 PM：分科会
- ◆会場 男女共同参画センター 多目的ホール (全体会)
三重県総合文化センター内 各会場 (分科会)
- ※記念講演 講師：本居宣長記念館 名誉館長 吉田悦之 様
演題：『本居宣長に学ぶ』

◎全国連合小学校長会研究協議会福岡大会

- ・令和7年10月16日(木)・17日(金)：福岡市

◎全日本中学校長会研究協議会香川大会

- ・令和7年10月23日(木)・24日(金)：高松市

◎東海北陸中学校長会研究協議会岐阜大会

- ・令和7年7月3日(木)・4日(金)：岐阜市

生徒指導委員会

委員長 亀山市立関中学校 校長

堀内 克子



不登校の小中学生が過去最高を更新し続けています。私たちは、誰一人取り残されない学びの充実を一層推進するために行動しなければなりません。そこで、生徒指導委員会では、第1回委員会で、下記の活動方針及び活動計画を策定しました。

また、本年度の生徒指導実践交流会では、三重県立みえ四葉ヶ咲中学校の現状等について学び、交流をもちます。お互いに学び合える有意義な機会になればと考えています。

〈活動方針〉

- (1)生徒指導等の諸課題の解決にむけた取組と支援の在り方を追求します。
- (2)地域及び関係機関との連携を密にし、互いの交流を深めるとともに、安全・安心な学校づくりに努めます。
- (3)県内各小中学校の情報交換を行い、課題を整理し、県校長会及び各市町校長会への情報発信に努めます。

〈活動内容〉

- (1)10月30日(木)生徒指導実践交流会の開催
 - ・三重県立みえ四葉ヶ咲中学校における生徒の様子と課題について
- (2)各郡市における不登校対策等の現状と課題についての情報交換

広報委員会

委員長 度会町立度会中学校 校長

服部 卓也



あらゆる分野で例外なく変化が起き、それぞれの変化の奥行きが極めて深く、変化のスピードが速い時代になりました。そんな三次元的な変化の時代には、前回と同じような次回は、ありません。「想定外」を「想定内」に取り込む創造性が必要です。そのような環境で子どもたちも、私たちも、学び続けています。「学び続ける」というのは、「新しいものの見方」を獲得し続

けるということ。だから学び続けていると、どんな状況になっても「必ず手はある」と思えるはずです。そのためにも、できるだけ情報というエネルギーを発信できればいいと考えています。執筆等、ご協力をお願いいたします。

〈活動方針〉

- (1)会員の声を幅広く掲載するとともに、情報交換や情報収集の場となる紙面づくりに努めます。
- (2)広報活動を通して、会員相互の連携意識の向上を図ります。
- (3)年2回発行し、情報提供に努めます。

〈活動内容〉

- (1)広報「校長会みえ」を年2回(7月号・2月号)発行します。
- (2)紙面は8面構成、全ページカラー印刷をします。
- (3)執筆については、広報委員または当該地区の理事を通して依頼させていただきます。

教育環境委員会

委員長 津市立誠之小学校 校長

松島 克幸



教育環境委員会は、子どもたちの一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育の実現を目指して、学校現場や県内全小中学校長の声を県議会議員や県教育委員会にしっかりと届けていきます。

5月19日(月)に第1回の委員会を開催し、本年度の活動方針等について協議しました。活動方針は次の通りです。

〈活動方針〉

- (1)各郡市校長会を通して、県内全小中学校から三重県教育委員会の施策や予算等に関する意見を集約します。また、要望の焦点化に努め「重点項目」を設定します。
- (2)集約した意見を「要望書・解説書」に取りまとめ、次年度の小中学校教育の充実発展に資するよう要望活動を行います。
- (3)昨年度の要望活動を踏まえ、子ども・保護者・教職員の具体的な事例に基づいて要望活動を行います。
- (4)取りまとめについては、昨年度までの確認事項を尊重しつつ、要望書の信頼性を高めるよう努めます。

特別寄稿



子どもたちの 輝く未来のために！

三重県 PTA 連合会 会長
木原 剛弘



『月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也』
俳聖であり、三重県が生んだ偉人である、松尾芭蕉の紀行作品「おくのほそ道」の冒頭です。昨年（令和6年）は、芭蕉翁生誕380年の節目であり、生誕の地である伊賀市では様々な事業が行われたようです。この「おくのほそ道」の旅の中で見出した蕉風俳諧の理念の一つに「不易流行」というものがあります。芭蕉翁の俳論をまとめた書物「去来抄」で、不易流行について次のように記されています。

『不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たにならず』

そして不易と流行について「その本は一つなり」と説きます。即ち、「不易」があつての「流行」であり、「流行」があつての「不易」なのです。つまり、いつまでも変わらないものの中に新しい変化を取り入れるという考え方が「不易流行」ということなのだと私は理解しています。

三重県PTA連合会は今年度75年目を迎えます。75年前にこの組織の設立に関わった先人達は何を想い、活動を始めたのでしょうか。それは「子どもたちの幸せ」を願う想いであり、今も色褪せない私たちPTA活動の原動力なのではないのでしょうか。この想いこそが私たちPTAにおいて、芭蕉翁の言われる不易であるのだろうと確信しています。

その一方で75年を経て「人口減少」「少子高齢化」「共働き世帯の増加」「地域コミュニティの希薄化」「デジタル化の進展」「経済格差の拡大」など急激に社会は変化をしています。子どもたちを取り巻く環境は厳しさを増しているように感じられます。そして、PTA活動について厳しいご意見があることも承知をしています。ただ子どもたちのことを想いいただくご意見の中には時折、子どもたちを置き去りにし

た大人の都合を垣間見ることがあります。また長い時間の中で、本来手段であったことが、目的に置き換わってしまっている場合もあるように感じることもあります。しかしながら私たちは75年前から変わらない「子どもたちの幸せ」を願う想いを忘れてはなりません。いま私たちが挑まなければならないことは、時代の変化に対応し、流行を取り入れ、私たちの不易である「子どもたちの幸せ」を願う想いをより時代に即したものと、みんなで鍛え上げることではないでしょうか。

令和7年度の三重県PTA連合会のスローガンを昨年度と同様に「子どもたちの輝く未来のために」とさせていただきます。私たちは「子どもたちの幸せ」を願う想いを大切に、保護者同士や学校、地域の方々など様々な人々のつながりにより、子どもたちが安心安全に、自分らしく生きる力を育むことを願っています。PTA活動の不変の真理であるこの想いを大切にするためにも、令和の時代に即した活動の在り方に改めて挑戦していく決意をこのスローガンに託しました。

チャールズ・ダーウィンは「種の起源」という著書の中で「最も強いものが生き残るのではない。最も変化に敏感なものが生き残る」という言葉を残しています。私たち三重県PTA連合会も、子どもたちの輝く未来に向けて、変化を恐れず、今まで以上に挑戦をしてまいります。今後とも変わらぬご理解ご協力を、何とぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、日ごろより温かな眼差しで子どもたちを見守りくださる、校長先生に改めて深く感謝を申し上げますとともに、三重県小中学校校長会のますますのご発展とご活躍を祈念申し上げます。



子どもも教師も 輝ける学校に

津市立安濃小学校 校長

若山 典彦

本校は創立142年を迎え、全校児童180名の校区に多くの水田と安濃川が流れる自然豊かな学校です。

私が新任の校長として大切にしていきたいことは、「子どもも教師も輝ける学校づくり」です。4月の始めに子どもたちには何事にも挑戦し粘り強く頑張ること、教職員には一人一人が力を発揮できる働きやすい職場を作っていくことを話しました。一人一人が力を発揮し輝ける学校を作るために、以下の取組を進めています。

1つは探求的な学びとして総合的な学習の時間等を中心に、安濃地域の特色を伝える安濃米等の地域題材を活用して、児童が主体的に活動するとともに地域とも連携して、社会とのつながりも学ぶ取組を進めています。

2つは安心・安全な学校環境づくりとして教職員・学校・関係機関が連携を密にして、一人一人の子どもの情報を共有し適切に支援することで、誰もが安心して過ごすことができる学校環境づくりに努めています。

3つは教職員一人一人の個性や専門性を生かして互いに話し合い、協働して高まり合う取組を進めています。

こうした取組を進めることで、子どもも教師も輝ける学校づくりを進めていきたいと思っています。



自分とまわりの人を 大切に

松阪市立第五小学校 校長

御堂 栄治

481人の子どもたちと、市の職員も含め約60人の教職員でスタートを切った本年度。4月より校長として着任しましたが、実は教諭として8年、教頭として2年、通算11年めの本校勤務となります。周りから「よく分かっている学校だからいいですね」と言われますが、子どもたちも先生方も大きく入れ代わっていて、まるで違った雰囲気です。

「校長」として戻ってきたことも影響しているのかもしれませんが。

ただ、様々な姿をみせながらも、本質的には素直で元気な子どもたち、その子どもたち一人一人を大切にする愛情と熱意に溢れた教職員の姿は変わらずにあり、積み重ねられてきた実践の成果を感じています。

めまぐるしく4月は過ぎていきましたが、入学式、始業式、PTA総会では一貫して同じことを発信しました。それは「かけがえのない自分を大切にすること」「大切な自分と同じようにまわりの人を大切にすること」です。

校長として、子どもたち、保護者、地域の方々、そして教職員を信頼し、子どもたちの姿や取組の素晴らしさを価値づけながら、子どももおとなも力が発揮できるような学校経営をめざしていこうと、決意しているところです。



「立場が人を創る」 かな？

伊勢市立二見中学校 校長

中西 祐一

25年前、港町の小さな小学校で勤務していました。その際、児童と保護者、地域の方も一緒に「25年後の自分へ」と手紙と思い出の品をタイムカプセルとして埋めました。私も一言、「25年後、まさか校長にはなっていませんよね」と書いて、プレミアがつくかなと持っていた500円札と一緒に入れました。埋めた後、「しょうもないこと書いたかな～」と後悔したので、手紙の内容が頭の片隅に残っていたようです。

ほどなく中学校に転勤し、生徒指導に部活動等「24時間働けますか？」を地でいっていました。教諭のころはほぼ、元気な生徒を担当していたせいか、そのおかげでいろいろな経験を積み、学習させていただくことができました（紙面上でははばかりれますので、ご想像にお任せします）。そして、教頭を経て校長となりました。最初のあいさつでは「コンプライアンスの徹底」「働き方改革」「部活動ガイドラインの厳守」等でした。「どの口が言っているのだろう」と思いながら（思われながら）、「立場が人を創る」と考え日々精進しています。

港町の小さな小学校は閉校してしまいました。あの500円札はどうなってしまうのでしょうか。

ちょっといい話



たくさんの人に
教えてもらって
今の自分があります

志摩市立浜島中学校 校長

大主 孔明

今から30年以上前、大学を卒業して教員になり、何もわからないままに教員生活がスタートしました。それでも、小学校の時の担任の先生のようにになりたいという思いで日々子どもたちとかかわり始めました。ですが現実にはうまくいかないことが多く、いろんなことが苦しい日々でした。よく職員室で愚痴を言っていた私たちを見て、当時の教頭先生が私たち若手に話してくれた言葉が、

「最悪って簡単に言うな。何もかも本当にやりつくしてもダメな時が最も悪い時。それまでは可能性がある。だから簡単に最悪って言うな」

という言葉でした。その方は、本当に厳しい実践を続け

てきた方で、それでも普段はそんなことはおくびにも出さず、いつも周りを笑わせてくれる方でした。そんな人がこれだけは厳しく話してくれました。その後、「本当にこれで十分か、やれることはやったのか」と考えるようになりました。それでもまだまだ不十分で、周りの先生方に迷惑ばかりかけていたのを覚えています。

それでもなんとか中堅と呼ばれる年齢になった頃、今度は別の方から言われた言葉が、私を後押ししてくれるようになりました。それは、

「『それはお前だろ』という気持ちをいつも大事にしたい」

ということでした。ついつい、何か事があると原因を探してしまい、時には自分以外の誰かや、何かのせいにしてしまうときがあります。でも本当にそうなのか？と考えるようになりました。自分に出来ることがあるだろう、と行動するようになりました。

他にも本当にたくさんの大事なことを、周りの先生方から教えてもらいました。それこそ年齢の上下に関係なく、この仕事に携わって多くの言葉をもらい、自分なりに取組につなげてきました。「やれることはすべてやったのか、自分でできることはないのか」と考えながら、残りの人生を過ごそうと思っています。

私の薦める一冊



給食の謎

～日本人の食生活の礎を探る～

著 松村 奨 (幻冬舎新書)

桑名市立長島中部小学校 校長

林 義徳

私たち校長は、小学校の頃から退職までの長い間、給食と共に毎日を過ごしています。その節目ごとの給食にかかわる思い出は、人によって様々でしょう。そんな給食愛は、調理員さんや栄養士さん、栄養教諭の先生方には負けずと劣らず、深いものがあるはずです。

この本は、私たちが当たり前のように接している学校給食の歴史、意義、その奥深さを改めて認識させてくれる一冊です。読み進めるうちに、献立の背景にある栄養学的配慮、地元の食材を活用した食育の試み、そして何よりも、子どもたちの健やかな成長を願う関係者の情熱

がひしひしと伝わってきます。これまで一緒に働いた調理員さん、栄養士さん、栄養教諭のみなさんの顔が思い浮かび、その時々苦勞されていたことやきっと同じ熱い思いを持っておられたのだろうなあと、感慨にふけてしまいました。

また、給食の歴史を紐解くことで、政治や社会の変化や課題が給食のあり方にどのように影響を与えてきたのかを学ぶことができ、教育史の観点からも興味深い洞察が得られます。なぜこの献立なのか、アレルギー対応はどのように進化してきたのか、食育の現場での工夫はどのように行われているのか。これらの問いに対し、多角的な視点と豊富なデータに基づいた解説は、私たち教育に携わる者にとって、新たな視点や気づきを与えてくれます。学校運営全体に関わる私たち校長にとっても、示唆に富む内容です。

子どもたちの「生きる力」を育む上で、食育が果たす役割の重要性を再認識し、今後の学校運営に生かせるヒントが数多く隠されています。日々の給食を改めて見つめ直し、子どもたちの食を通じた学びをさらに深めていく一助となれば幸いです。

ごちそうさまでした。

四日市市中学校長会

夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども

四日市市中学校長会は、市内22校の中中学校長が連携し、教育政策や教育諸課題について、各学校の状況を踏まえて、四日市市教育委員会や各種関係団体と連携しながら、積極的な提案・提言を行うとともに、協力して方向性を定め、課題の解決に努めています。私たちは、「夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども」を育成するため、生徒一人一人が可能性を最大限に発揮できる環境づくりを目指し、地域全体の教育の質を高めるために活動しています。本会では、連携強化と教育現場の課題解決を図るため、月1回の定例校長会の開催に加え、市内を複数のブロックに分けた「ブロック校長会」も月1回実施し、地域特有の課題や取り組みについての意見交換が行われています。校長会では昼食をともにしながら懇親を深め、和やかな雰囲気の中で意見交換を行うことで、より実りある議論が行われています。

また、昨年より三重郡校長会を交えた新年会を復活させ、懇親を深めるとともに、地域を越えた教育の連携強化や情報共有を行っています。さらに、校長たちが互いに学び合い、専門性を高めるための研修の機会を設け、教育の質をより一層向上させる取り組みも行っています。これにより、現場での指導力の向上や多様な教育課題への対応力を研鑽しています。市内22校の強固な連携を活かし、四日市市ならではの特色ある教育を推進し、次世代を担う若者たちの成長を地域とともに支えています。私たちは未来を見据え、地域とともに歩む教育の道を築いていきます。



度会郡校長会

度会郡はひとつ！

度会郡校長会は、郡内（玉城町・大紀町・南伊勢町・度会町）の小学校11校、中学校6校、計17校で構成されています。

度会郡へお越しになる方にとっては、想像以上に広く、学校間の距離も遠く感じられるそうです。しかし、度会郡内の学校は、実にアットホームで、心の距離はとても近いです。

度会郡校長会は、小・中学校が相携え、明るく秩序ある「度会教育」を前進させ、望ましい教育の振興を推進してきました。

一方、本年度よりさらなる学校の統廃合が進み、令和9年度には、本年度より2校減って、小学校10校、中学校5校、計15校となります。

しかし、この状況をマイナスにとらえるのではなく、より連携を密にして児童生徒に生きる力や学力をはじめ、確かな力をつけていくことができる学校としていけるよう、そのあり方について模索していく必要を感じています。

度会郡内の学校間の連携については、ネットワークが充実しており、困ったことや相談ごとをはじめ、互いに助け合い補完しあう雰囲気が醸成されています。諸先輩方が受け継いできた伝統の上に立ち、現下の社会情勢を深く洞察しながら、人間尊重の精神を基盤とした人間性豊かな児童生徒の育成を図っていくことをめざしています。そして、「度会郡はひとつ」というテーマの具現化に向けて種々の取組を進めているところです。これからも度会郡校長会のつながりを「人の和」として、協働しながら共に歩んでいきたいと思っています。



編集後記

4月末、三重県小中学校長会の総会が開催され、県教育委員会小中学校教育課長より行政説明がありました。説明の中で、第4期教育振興基本計画についての話があり、そのコンセプトとして「持続可能な社会の作り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられていました。

「ウェルビーイング」という言葉は、ここ数年で頻繁に耳にするようになりました。「身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること」を意味し、単に病気や怪我がないだけでなく、心身の調和が保たれ、ストレスが軽減され、他者とのつながりを持ち社会に貢献できている状態を指します。

実は、1946年に世界保健機関が「健康」を定義する際に「ウェルビーイングな状態」という言葉を用いていたということです。80年近く前から使われていたと

は、改めてその歴史の深さ、言葉の重みに気づかされます。子どもたちの自己肯定感の涵養は、子どもたちが主体的に学び、困難を乗り越える力となるウェルビーイングの向上に不可欠であると感じています。

さて、三重県小中学校長会におきましても、校長先生方ご自身がウェルビーイングな状態でリーダーシップを発揮して学校経営に取り組んでいただくことを切に願っています。そのためには、三重県小中学校長会の活動がより一層活性化していくことを期待しています。

最後になりますが、いつも快く広報原稿の依頼にご協力いただき執筆してくださることに心より感謝申し上げます。今年度もよろしくお願い申し上げます。